

# 臨床研修センター

川崎幸病院は2015年度より臨床研修センターを設立。  
より一層研修医の教育体制に力を入れていきます。

センター長 太田 竜

## 川崎幸病院臨床研修プログラム

<1年次>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科						外科			救急	麻酔科	選択
	救急日当直											

<2年次>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	地域医療	選択										
	救急日当直											

※研修科の順番は例です。

### 川崎幸病院 臨床研修の魅力

- 2年間を通して救急診療に携わることができます。  
ERでのファーストタッチのほとんどを初期研修医が行います。
- 2年次の選択期間が長期に渡り、後期研修へつなげるカリキュラムで研修することができます。
- 多種多様なカンファレンスを開催しています。  
各科カンファレンス以外にも、朝のERカンファレンスなど研修医向けのカンファレンスを開催。  
ご希望があれば医学生の参加も可能です。
- 選択可能な地域医療研修を実施しています。  
法人内クリニックでの在宅医療研修、鹿児島県の薩摩川内市下甕手打診療所での離島研修から選択可能です。
- 米国から医師を招聘し、研修医の教育を行います。



#### ERカンファレンス

ERカンファレンスは初期研修医の勉強の場として開催しています。  
前日の救急症例について研修医がプレゼンし、間違いやすい症例や考え方に対して指導医が指導することで、救急疾患へ対応できる医師を育てています。



#### 下甕手打診療所

(しもこしきてうちしんりょうしょ)  
長年離島医療に携わり、Dr.コトー診療所のモデルにもなった瀬戸上健二郎医師が指導にあたります。  
離島での経験はプライマリケア能力の養成に最適と言えるでしょう。



#### 米国医師の招聘

ハワイ大学の総合診療医であるAndrew GTenHave医師、トーマス・ジェファーソン大学の救急医学准教授であるDavid F. Gaieski医師を招聘し、研修医とのカンファレンスを始め、様々な取り組みを行っています。

### 川崎幸病院

医師採用HP

医師採用FB



採用に関する最新情報は随時ホームページへUPしていきます。  
医学生参加型のイベントもあるので、ホームページやフェイスブックページも是非チェックしてくださいね！

社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院

## 臨床研修センター

問い合わせ : recruit@saiwaihp.jp

# 研修医の声

川崎幸病院での研修の感想を聞いてみました！



**脳神経外科 シニアレジデント4年目**  
**成清 道久(日本医科大学 卒・当院にて初期研修修了)**

当院の初期研修は任せられることが多い分、責任もありますが、決して放置されているのではなく、病院全体で研修医をみてもらっている感覚です。各科の隔たりがないので、他科へコンサルトしやすいですし、初期研修医から後期研修医に残る医師も多いので、相談しやすいです。医学生の方皆さん！医学は自分がどこにいても学ぶことができます。本やネットで最先端の医学に触れることが出来ます。しかし医療は実際に行わないと習得出来ません。横で立って見学しても、動画で見ても出来るようになりません！研修医としてではなく、一人の医師として第一線に立つことを求められ、多くの患者さんを診て、そして多くの手技を実際に行い活躍出来る病院はここです！やる気と体力に自信がある人は是非一緒に働きましょう！少しでも興味を持ったらぜひ病院見学にいらしてください。来たら絶対後悔はさせません。



**初期研修医(2016年3月修了)**  
**青盛 恒太(横浜市立大学 卒)**

当院の魅力は何と言っても、救急外来でも各診療科でもどんどん実践できることだと思います。1年目に経験した手技は、CVカテーテル・冠動脈造影・テンポラリーペーシング留置・気管切開・腹腔鏡下虫垂切除術・観血的骨折整復固定術(大腿骨)等、1年目から多くの手技を経験できます。現在も消化器内科で40件を超える胃カメラの検査を行っています。見学でも介助でもなく、自分の手で手技を経験して、やりたい診療科目をじっくり選ぶことができます。



**初期研修1年目**  
**落合 智貴(和歌山県立医科大学 卒)**

当院研修プログラムの特徴である2年間のER研修では月間50台近くの救急車のファーストタッチを経験し、walk-in受診を合わせると月間およそ100症例の患者さんの診療を行います。臨床経験豊富な先輩医師の指導の下、自分の頭で主体的に考えて動きながらプライマリ・ケアの基本を学べるのが当院の魅力です。学生の頃とは違い責任も大きいですが、人から直接感謝される喜びは何物にも代えがたいものがあります。先日は退院される方から「入院生活は辛かったけど先生に出会えてよかった」との言葉をもらいました。毎日本当に心がときめく仕事ができています。まだまだ成長途中の川崎幸病院臨床研修プログラム。これから大きく楽しく発展させていきたいという方をお待ちしています。



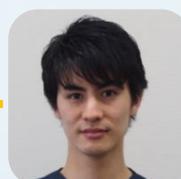
**初期研修1年目**  
**古賀 れい奈(横浜市立大学 卒)**

研修病院を選ぶにあたって、選別基準は人それぞれあるかと思いますが、救急でcommon diseaseを数多く経験したいという方には、この病院はオススメです。1年目からERでのwalk inも救急車もファーストタッチはほぼ全例、研修医が診ることができます。一方で、救急車の台数も多く、忙しいと敬遠されがちかもしれませんが、実際は指導医の先生が一例一例必ずフィードバックして下さいますし、自分で本を読んで勉強する時間も十分にあります。現在、女性研修医は私のみですが、当直を含め、体力面で困ることはありませんし、またプライムの時間もしっかり確保できます。初期研修2年間で、多くの症例を経験したい方、たくさん手技をやりたい方、一度見学にいらしてください。



**初期研修1年目**  
**堤 広祐(帝京大学 卒)**

川崎幸病院では、フレンドリーな雰囲気の中、たくさんのcommon diseaseを経験できます。科の垣根を越えて上級医に質問しやすい雰囲気があるので、充実した研修を行うことができます。当院のプログラムは、自由選択の期間が1年と長めに設定されているため、すでに進路を決めている人もそうでない人も、希望に沿った研修プログラムを作ることが可能です。大学病院と違いたくさんの手技、症例が経験できることは当院ならではの魅力だと思います。研修医の仲も良く、お互いで知識や疑問点を共有できる環境が整っています。とても働きやすい職場ですので、是非一度見学に来て、当院での研修をご検討ください。



**初期研修1年目**  
**富山 優介(東北大学 卒)**

初期研修では救急を学ぼうと思い立って10ほどの病院を見学しましたが、しっかりやっている病院であれば研修医のレベルに大きな差はないと感じました。むしろそれにプラスαで何ができるかが重要だと思いました。川崎幸病院では米国医師を招聘しての英語のレクチャーがあったり、毎朝30分のERカンファでは研修医が疑問を持った症例、学びがあった症例を発表する機会があります。また学会発表したり論文を書いたり、海外に臨床留学したりするチャンスが初期研修の間にあります。この病院では努力は必要ですが、本気でぶつかれば期待以上の成果を得ることができると思います。



**初期研修1年目**  
**樋口 正樹(東邦大学 卒)**

これをご覧になっているということは川崎幸病院に興味を持っていただいているということですね。先輩方の研修記にもあるように幸病院は急性期の病院ということで大学のように症例をじっくりと考えるというよりは、有無を言わず正面からぶつかっていくというイメージが最もしっくりくる感想です。自分から動かなければいけないという姿勢が身に付きやすい環境にあるということですね。症例に正面からぶつくと当然いろいろ疑問が出てきて危機感も生まれるので、自分から参考書を調べて指導医の先生に質問するきっかけがしやすいということにもなり、結果として生きた勉強になっています。すでにCVも10件近く経験しました。まずは現場で医療を実践したいという方は向いていると思いますよ。



**初期研修1年目**  
**原口 亮(鹿児島大学 卒)**

研修医としての生活がスタートして診療科に配属されてから、約3か月が経ちました。私は初めに腎臓内科をローテーションし、現在は整形外科で研修中です。腎臓内科では実際に患者を受け持ち、毎朝の診察、検査や処方の方針、治療方針の決定などを上級医と相談しながら行いました。また採血やCVカテーテルの挿入などの手技があれば呼んでもらえます。また当院での研修の特徴はER日勤当番があることです。週1回の当直とは別で日勤帯にERに入り、救急車やワークインの患者の対応を行っています。常に研修医がファーストタッチで診察を行い、検査のオーダーまで出します。検査結果をもとに上級医に今後の方針をプレゼンし、それに対するフィードバックを受けます。少しずつできることが増え、毎日成長を感じられます。